

岐阜市総合教育会議

子どもも教職員もいきいきと
チャレンジできる学校とは
～対話とリフレクションによる校内研修の改革～

熊本大学大学院教育学研究科 前田康裕



今日のお話

1 求められる力と授業改善

2 教師の成長とリフレクション

3 校内研修の改革

4 教師の幸せ



1 求められる力と授業改善





環境

汚染と気候変動



経済

貧富の格差の広がり

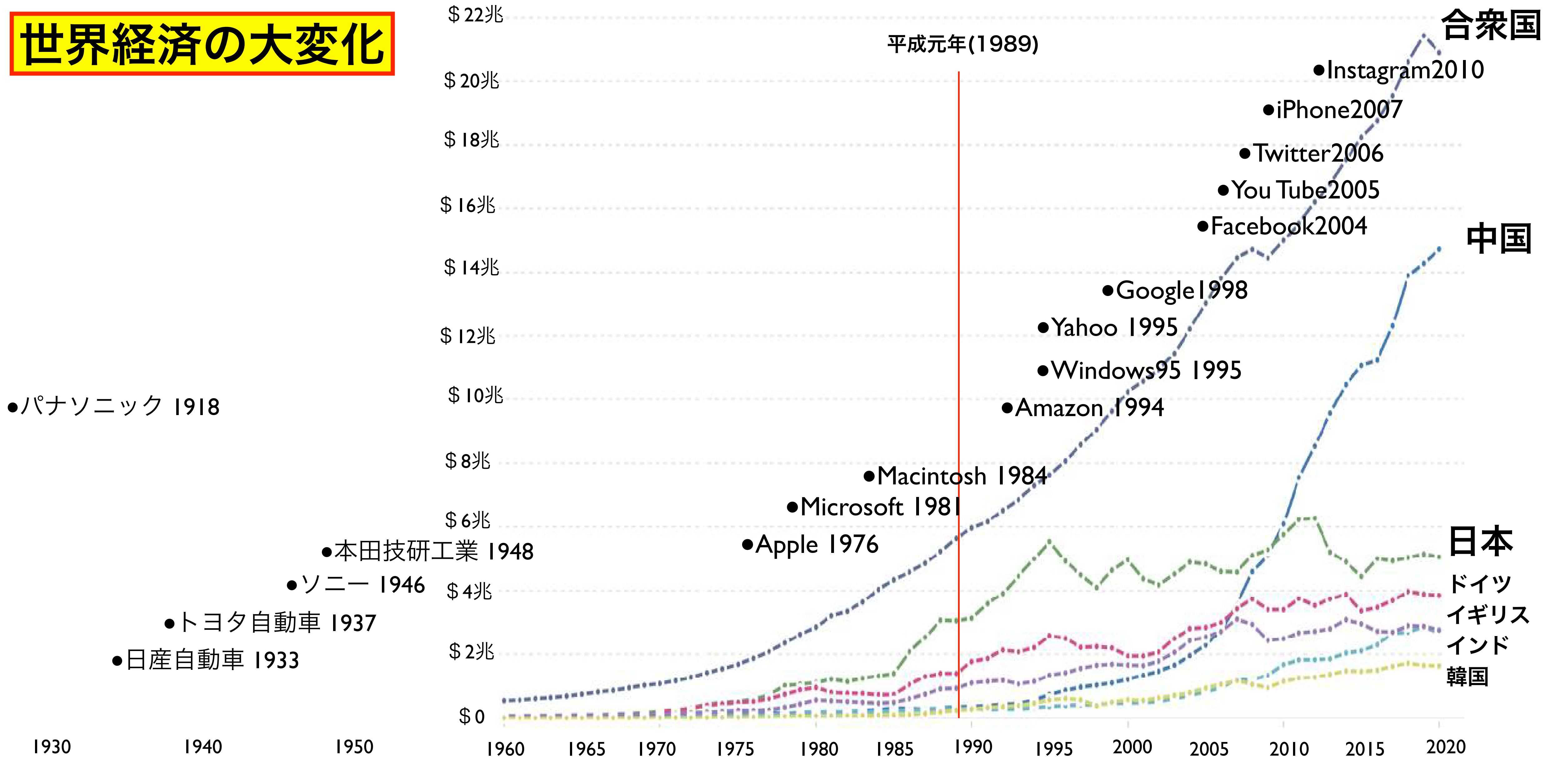


社会

紛争の増大と難民の急増

世界経済の大変化

GDP（国内総生産）の推移





激変する社会

コンテンツベースの学習

領域固有の内容(content)中心

何を知っているか？

+

コンピテンシーベースの学習

汎用性の高い資質・能力(compitency)中心

どのような問題解決を現に成し遂げるか？

力を合わせないと複雑な問題解決はできない



どんな人と一緒に仕事をしたいですか？



認知的スキル

知識・思考・経験を
獲得する心的能力



目標達成

- ・ 忍耐力
- ・ 自己制御
- ・ 目標への情熱



感情の コントロール

- ・ 自尊心
- ・ 楽観性
- ・ 自信

社会情動的スキル (非認知的スキル)



他者との協働

- ・ 社交性
- ・ 敬意
- ・ 思いやり

明治時代の学校



A photograph of a classroom. A teacher, seen from the back, stands at the front near a large blackboard, holding a piece of paper. Several students, also seen from the back, are seated at their desks, facing the teacher. The room has a chalkboard and some papers pinned to the wall on the left.

教師は教える

児童生徒は教えてもらう

できる児童生徒が発言する



A photograph of a classroom. In the foreground, several students are seated at their desks, viewed from behind. They are using tablets with blue protective cases. The desks are wooden and have various items on them, including a pink bag and papers. In the background, a teacher is standing at the front of the class near a green chalkboard. Other students are visible further back in the room. The text is overlaid in the center of the image.

「従来の授業+ICT」ではなく
ICTを使って授業改善を行う

教師が教える授業



教師

挙手指名



教師による説明



知識・技能

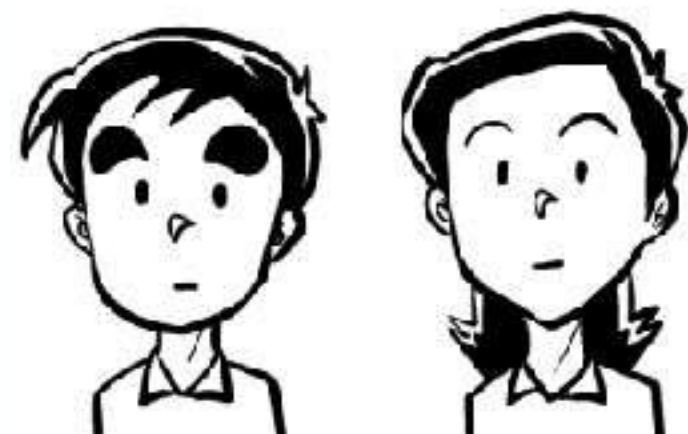
タブレットは
どこで使おうか？



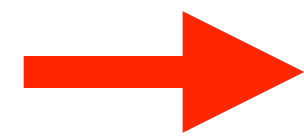
知識・技能

テスト

知識・技能



子ども

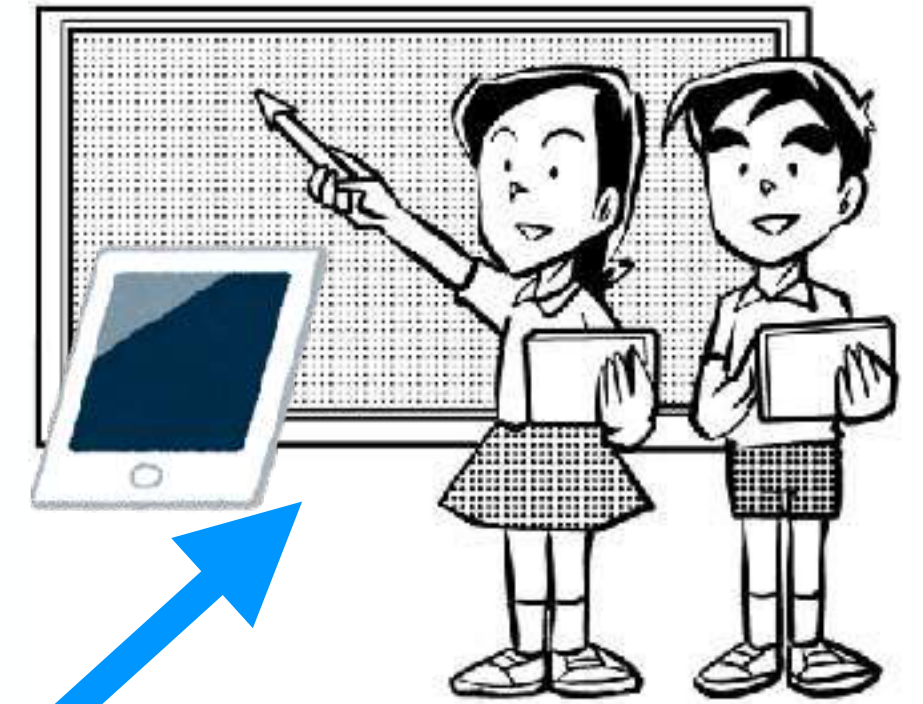


子ども

子どもが学びとる授業

めあて

リアルで必然性のある課題
協働して解決できる課題



対話

他者の尊重

自分の考えを
外に出した
相互作用



思考力・判断力・表現力

学びに向かう力
人間性の涵養

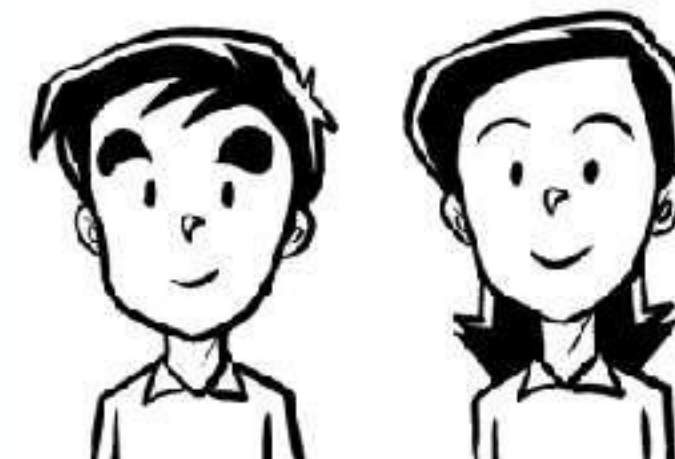
知識・技能

内容知（学習内容）
方法知（学習方法）

振り返り



形成的評価

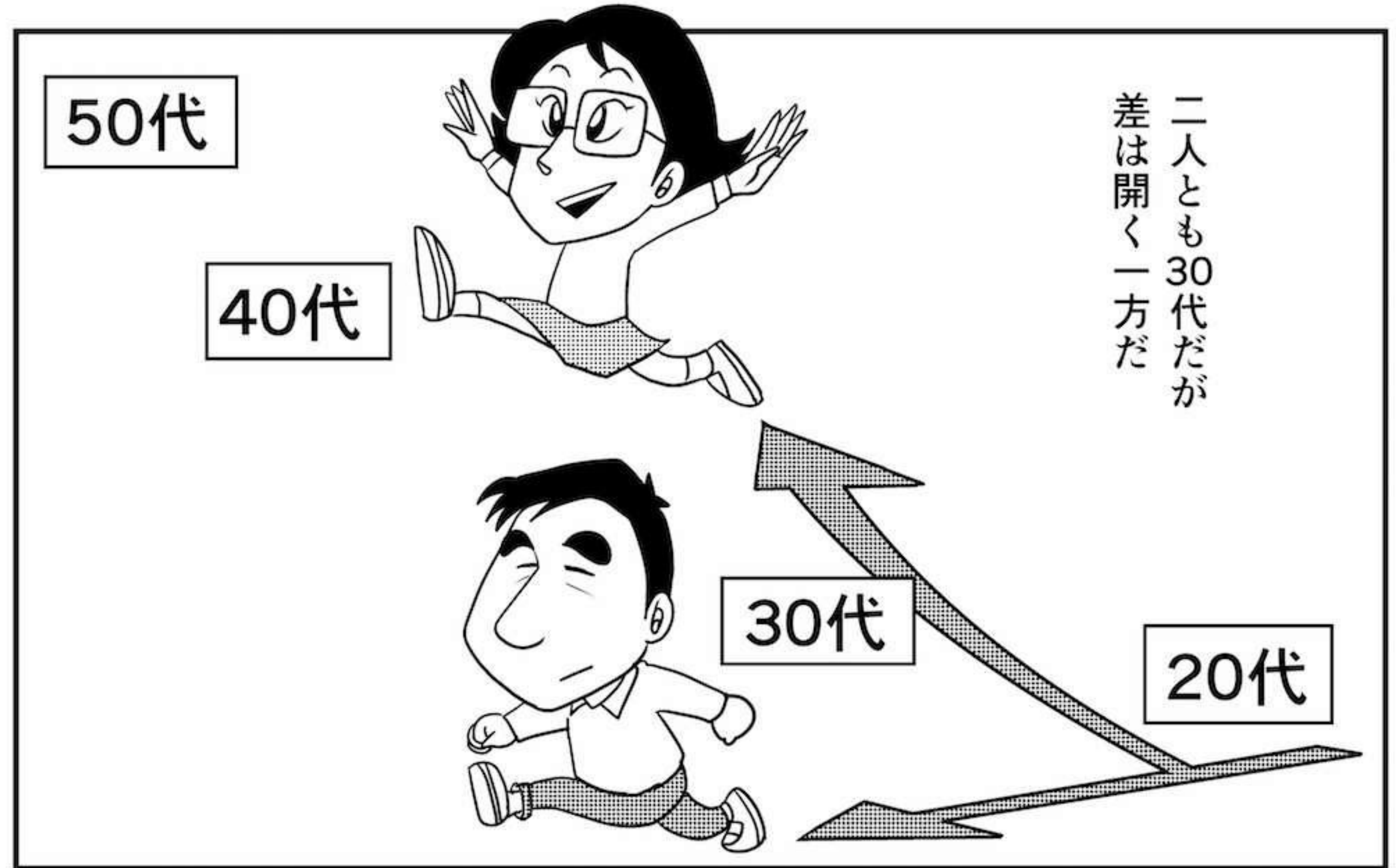


子ども

2 教師の成長とリフレクション



経験を重ねると教師は成長するか？

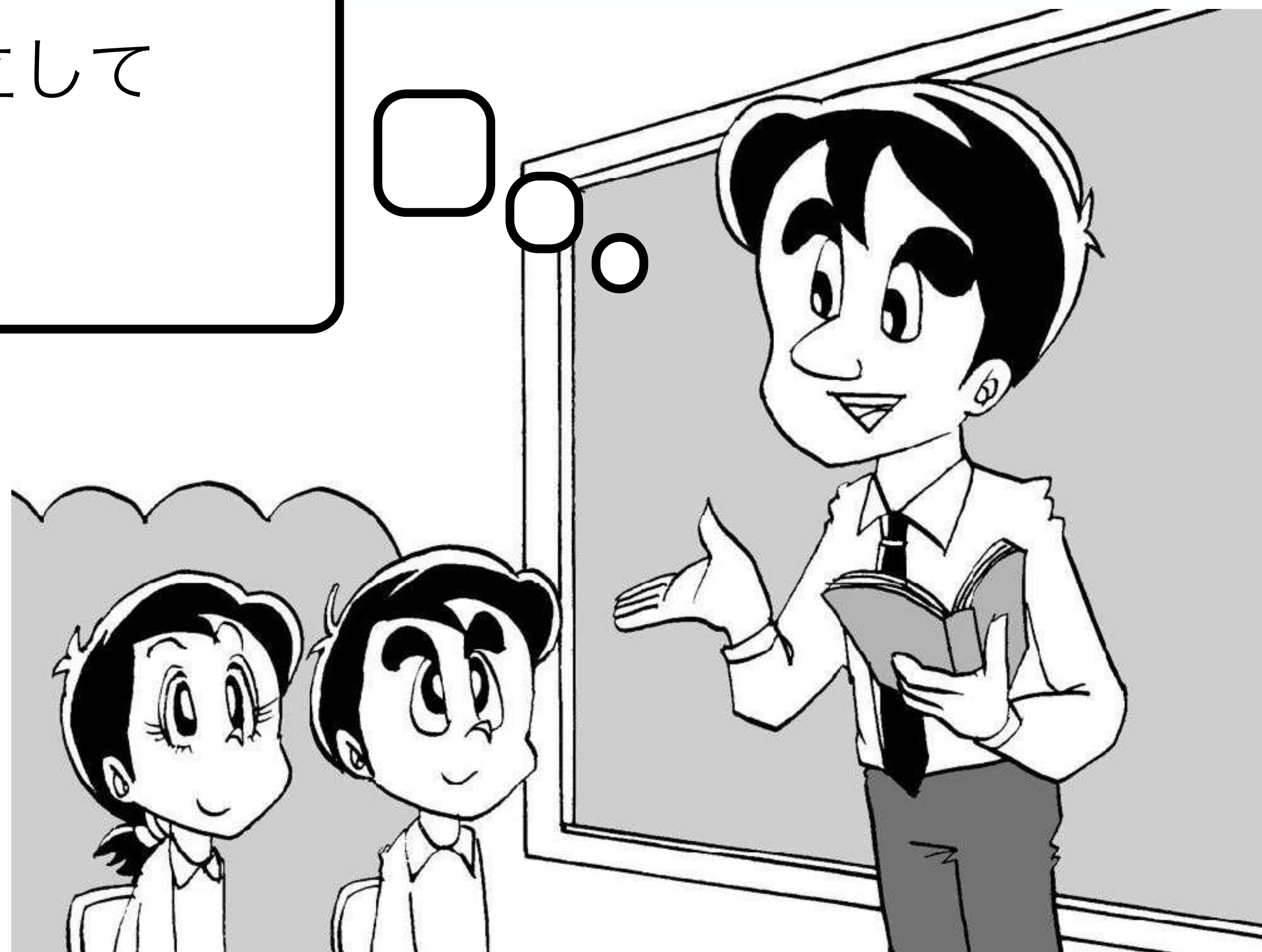


教師の成長の問題点

明日は
社会科の授業だ
よーし
しっかり発問を
考えておこう！



ちゃんと
授業が成立して
いるぞ！



さて
明日の授業の準備だ！
おれって
けっこう
がんばっているなあ





教師の資質・能力の層構成

資質と能力	教師の資質・能力の層構成	外からの観察・評価
能力 ↑ 資質	A 勤務校での 問題解決と課題達成の技能 B 教科指導・生徒指導の 知識・技術 C 学級・学校マネジメントの 知識・技術 D 子ども・保護者・同僚との 対人関係力 E 授業観・子ども観・教育観 の錬磨 F 教職自己成長 に向けた 探究心	易 ↑ ↓ 難

今日の授業は
どうだったの
だろう？



自分の授業から学ぶ

リフレクション（省察）

Reflection

リフレクション（省察）

- ①学校や授業においてある行為を行った際に
- ②自分の行為に関する関心、不安や懸案事項をもとに
実践経験を振り返り
- ③そこで行為の非合理的な面や不安な感情をもたらす
原因に気づき
- ④それ以外の行為を取る可能性を拡大して、吟味し
- ⑤新しい選択肢を選んで次の行為を起こす、という
一連の手続きによる「変化を促す振り返り」を指す。

教師自身が受け身になっていないか？
「教えてもらおう」



教師は学んだことを
実践しながら成長する



これからの教師の役割

教える専門家 → 学びの専門家



子どもに求められる力は
教師にも求められる

3 校内研修の改革



熊本市立尾ノ上小学校の校内研修

タブレットカフェ（月に1回：自由参加）



若手教員が講師となり
アプリの使い方を紹介



お菓子を食べながら楽しく

熊本市立尾ノ上小学校 年間数名の研究授業では一人一人の授業は変わらない

自分の授業を改善するというプロジェクト学習



国語チーム



算数チーム



理科チーム



特別支援チーム

自分の日常の授業の
問題は何か？
(課題)

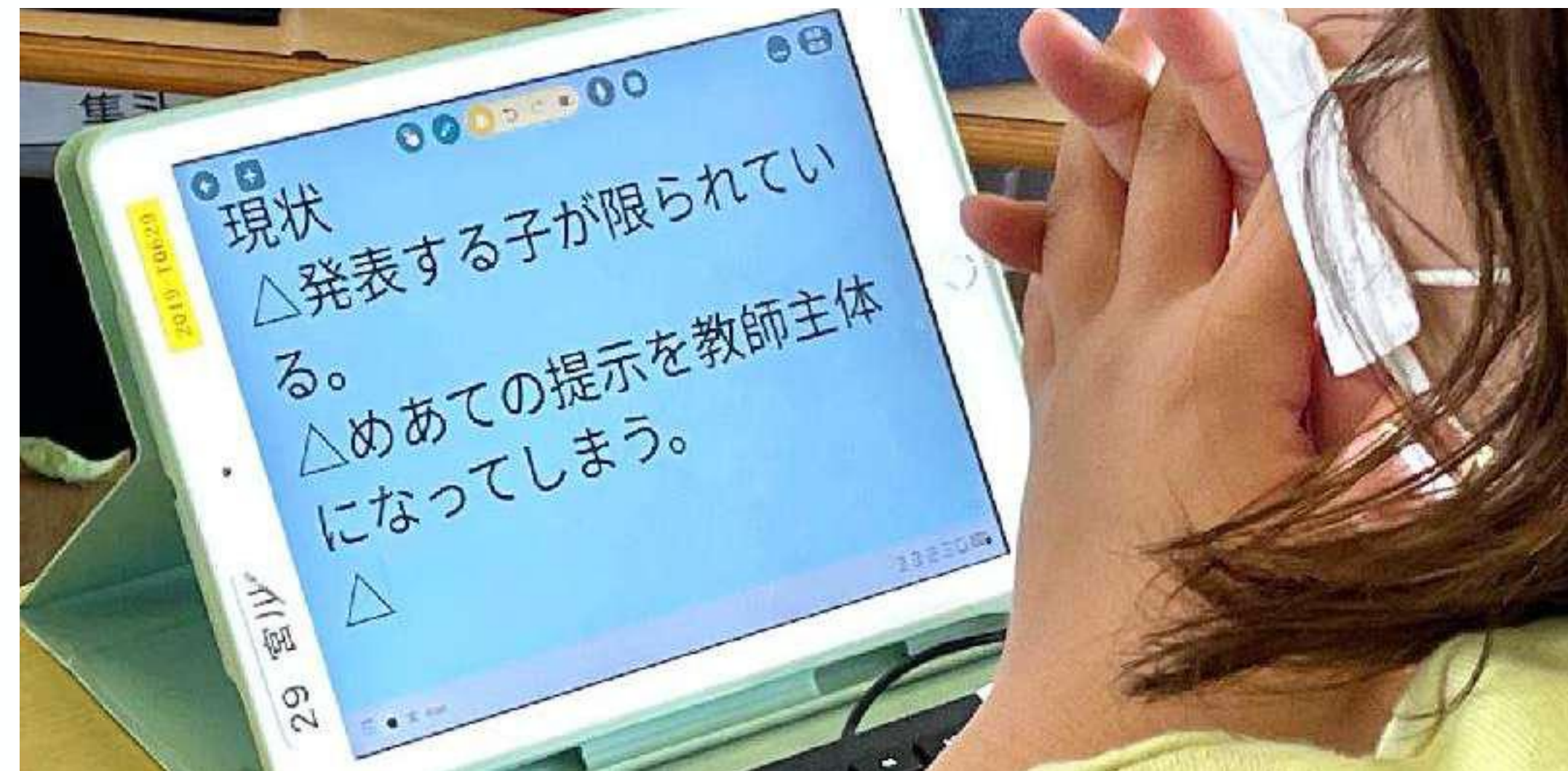
問題を解決するために
何にどう取り組むか？
(見通し)

自分の授業改善の明確化

夏休みの1日研修



教科グループに分かれて



授業の課題と改善策を考える



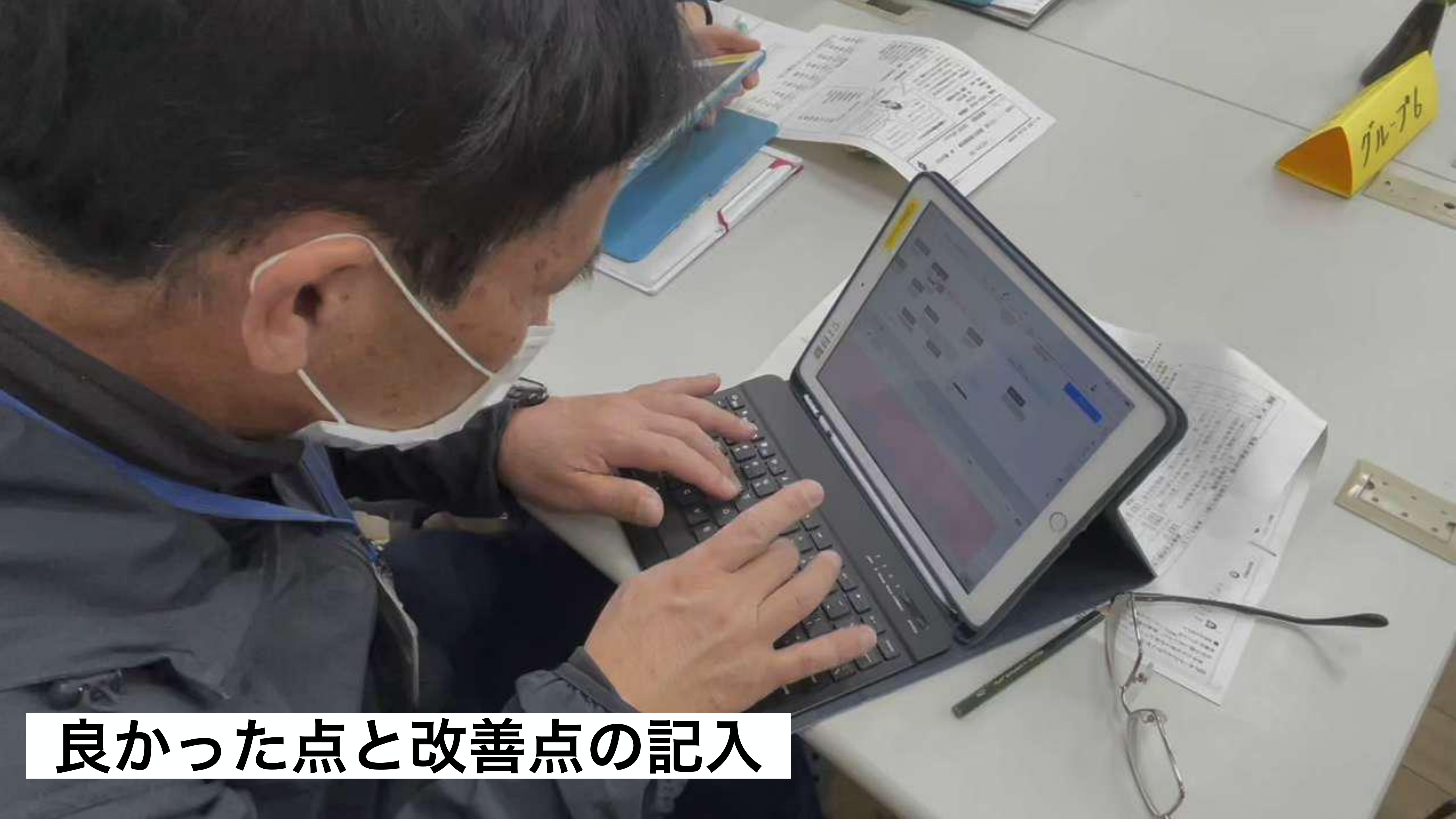
授業の課題と



授業の改善案の発表

研究授業

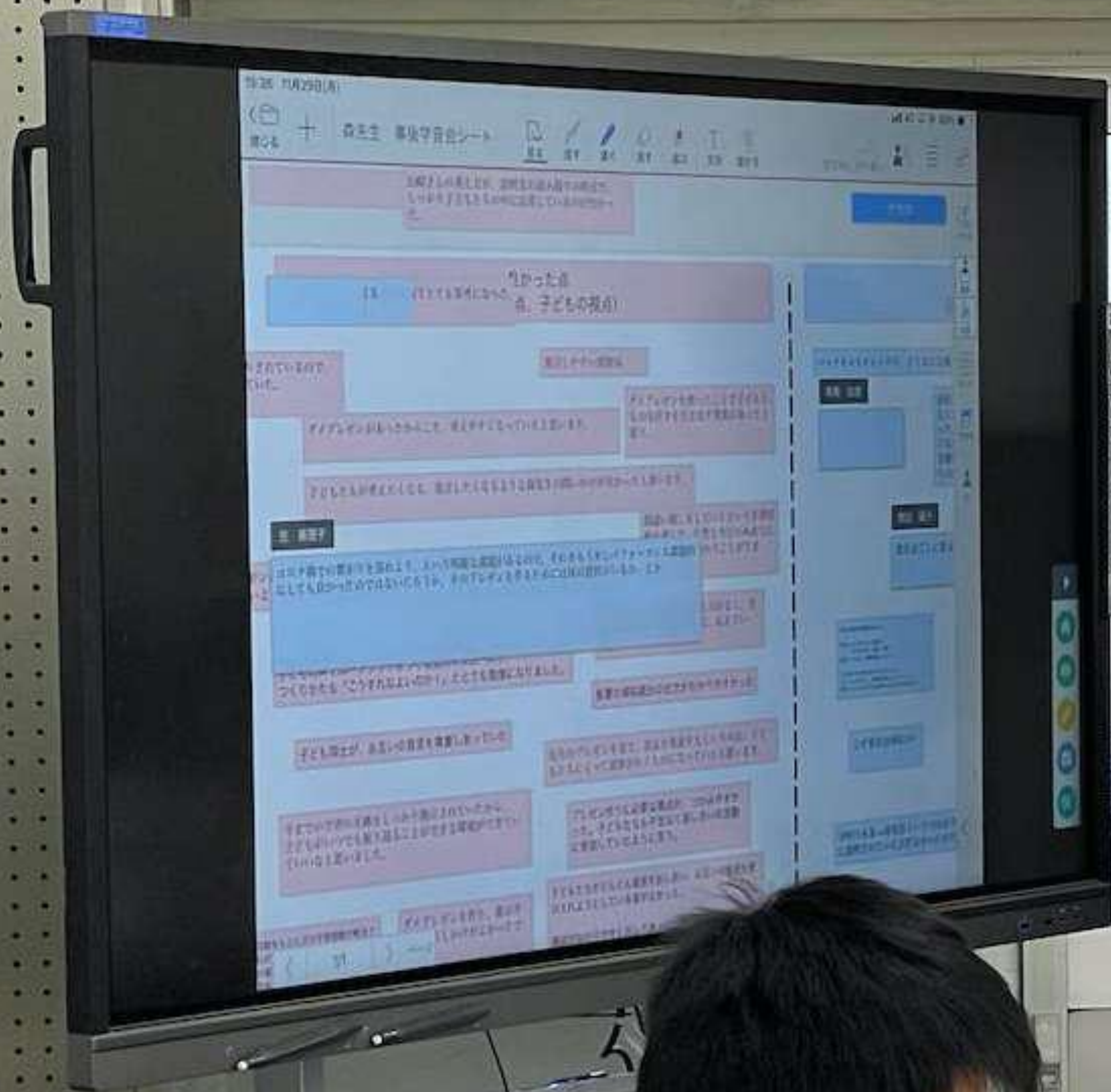




良かった点と改善点の記入



授業者は意見を把握



良かった点と改善点の共有

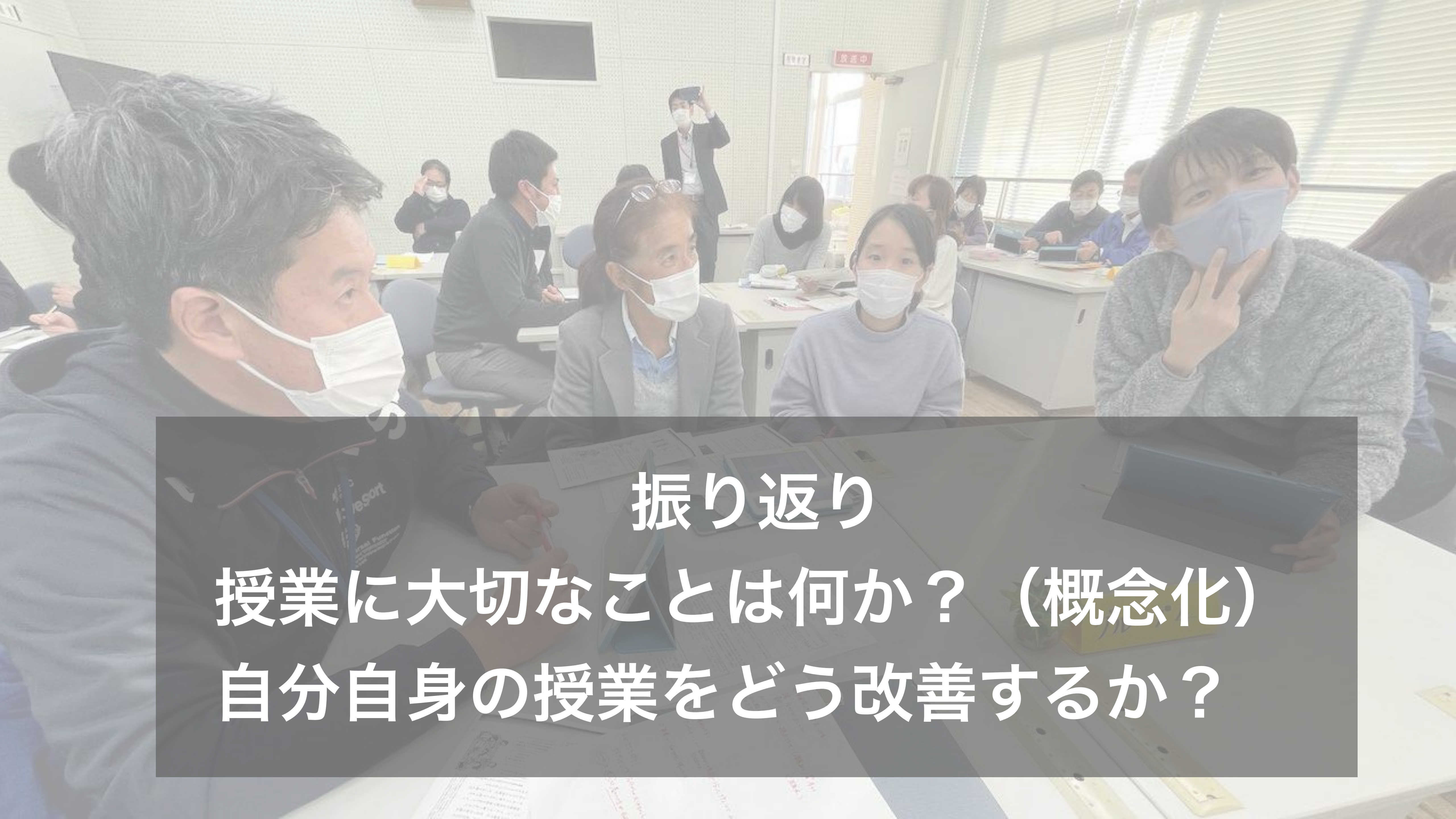




改善点を中心に少人数による対話



改善点の具体案についての全体での意見交換



振り返り
授業に大切なことは何か？（概念化）
自分自身の授業をどう改善するか？



自分自身の授業の方法を振り返る

授業の中で、わからない子どもをとりこぼしていた。その子を教師が教えようとするのではなく、仲間の力(子ども同士)を活用することの大切さを実感している。

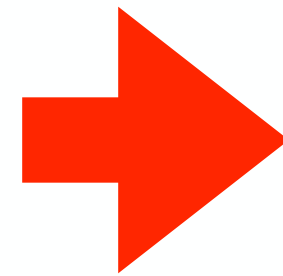
一人一人の授業改善の視点を全体で共有する

従来の授業研究会

- 1、授業者の自評
- 2、質疑応答
- 3、意見交換
(挙手指名型)
(ワークショップ型)
- 4、助言

課題

研究授業のみの議論になって
参加者の授業改善につながらない
助言者に依存していないか？



尾ノ上小学校の授業研究会

- 1、授業者の自評
- 2、タブレットで一斉に記入
(良かった点と改善点)
- 3、対話による改善のアイディア

- 4、対話によるポイントの概念化
- 5、対話による自分の授業の改善点
- 6、全体の振り返り (学んだこと)

尾ノ上小学校で社会を教える下城幸秀先生は還暦を過ぎるまで、「チョーク1本で授業はできる。そんな信念を貫いてきた」。だが周囲が次々に機器を使いこなす中で「観念」し、支援員らに教わって21年度からアプリを使うようになった。

小学5年生の「自動車」の授業で、児童たちがタブレット端末を使って自動車の歴史、海外の自動車事情といった情報をどんどん引き出し、発表資料を作る姿に感動した。1カ月ほどして単元を振り返るテストでは、高得点の答案用紙ばかり。「45分、ずっとしゃべりながらやってきた授業はなんだったんだ、と言いたくなる」

職員室でタブレットを操作していると、「下城先生も変わりましたね」と同僚から冷やかされる。

熊本市立五福小学校の校内研修

対話を重視した学習形態





対話を重視した学習形態

学校教育目標を具現化するための校内研修



カリキュラム・マネジメント

各学校が、
学校の教育目標をよりよく達成するために
組織としてカリキュラムを創り、動かし、変
えていく、組織的かつ発展的な、課題解決の
営みである。



総合的な学習の時間のカリキュラム改善

総合的な学習の時間のカリキュラム改善



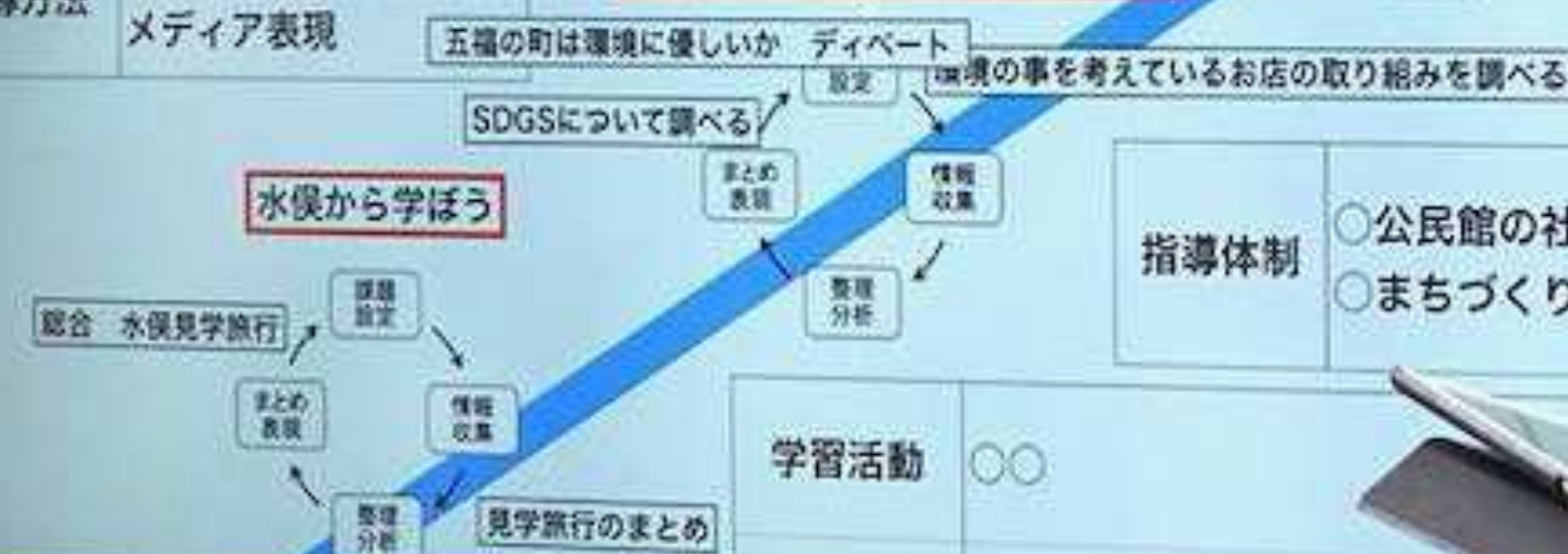
単元構想 5学年 単元名『五福の町の良さを伝えよう』

身につけたい資質・能力

知識・技能	インタビューや映像をとる技能を高め、それらの素材を使って表現する。
思考・判断・表現	効果的に伝えるために、写真や動画を使って表現の仕方を工夫する。
主体的に学習に取り組む態度	振り返りを行いながら、仲間と積極的に話し合い、よりよい伝え方を考える。

指導方法
プロジェクト学習による
メディア表現

五福の町について調べよう



指導体制

- 公民館の社教主事との連携
- まちづくりの会の方々との連携

学習活動

学習評価

総合的な学習の時間のカリキュラム改善

教職員が協働的に学び合う



子どもの学びと 教師の学びが 相似形

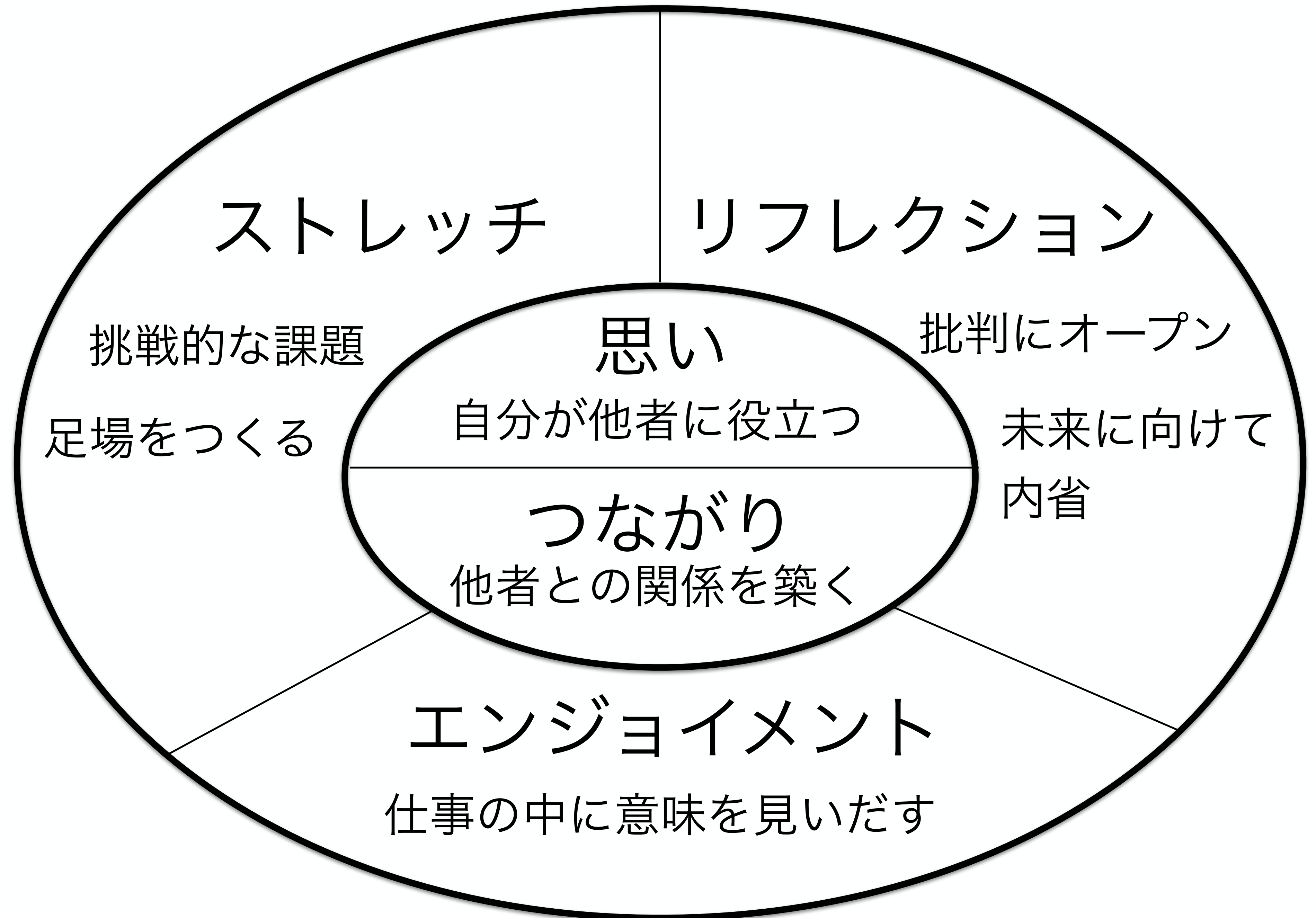


対話と リフレクション 協働と探究

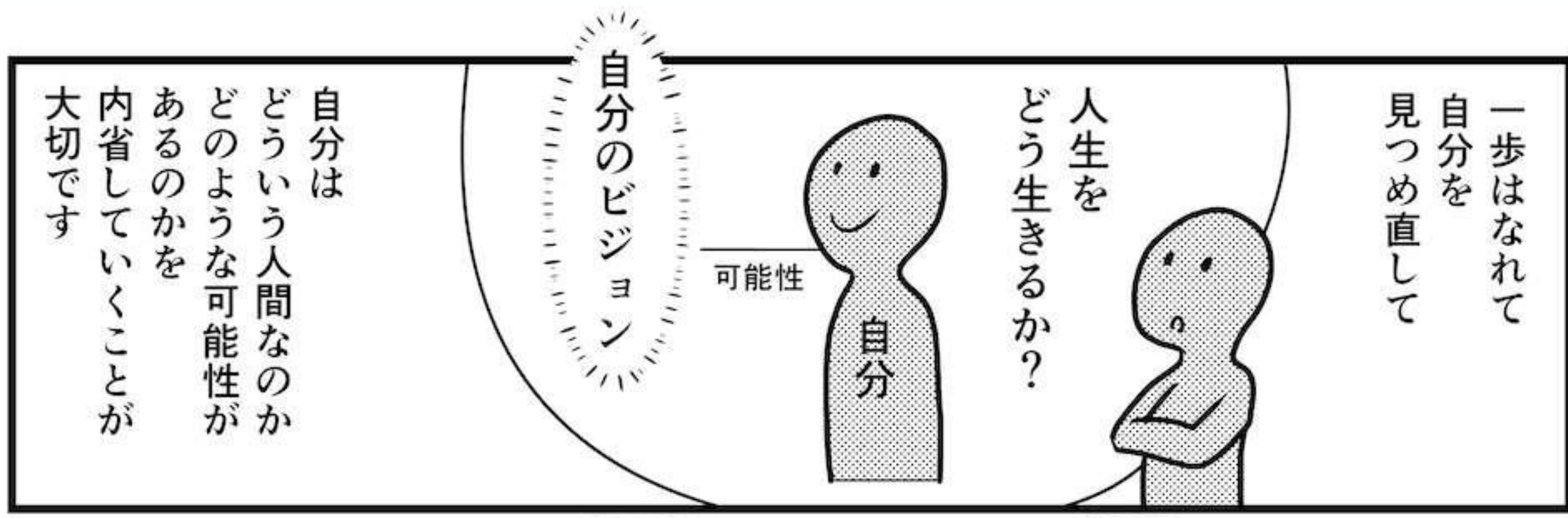


4 教師の幸せ









一步はなれて
自分を
見つめ直して

人生を
どう生きるか？

可能性

自分

自分のビジョン

自分は
どういう人間なのか
どのような可能性が
あるのかを
内省していくことが
大切です



どのように
社会や人生を
よりよいものに
していくかを考え

主体的に学び続けて
自ら能力を
引き出していくことが
今の子どもたちには
求められているんです※

それを
教師ができなくて
どうするんですか？

※中央教育審議会答申(2016)『幼稚園、
小学校、中学校、高等学校及び特別支
援学校の学習指導要領等の改善及び
必要な方策等について』





ぼくはICTかな
新しい機器を使うと
わくわくします



わたしは
教育書を読んで
勉強している時に
充実感を感じます



そうそう
そんなことで
いいんです



それを
どうやって
組織の中で
生かせるかって
考えてみると
楽しく
なるでしょ？

たとえば
ICTの自主講座を
企画したり
研究通信を発行して
自分が勉強したことを
知らせたりすると
みんなの役に立つし
自分自身の能力も
伸ばせます

だからやるんだよ

カリキュラム
マネジメントを
核にして

学校という組織での
働き方を
改革するんだ



経営学者の
ドラッカーは
次のように
言います

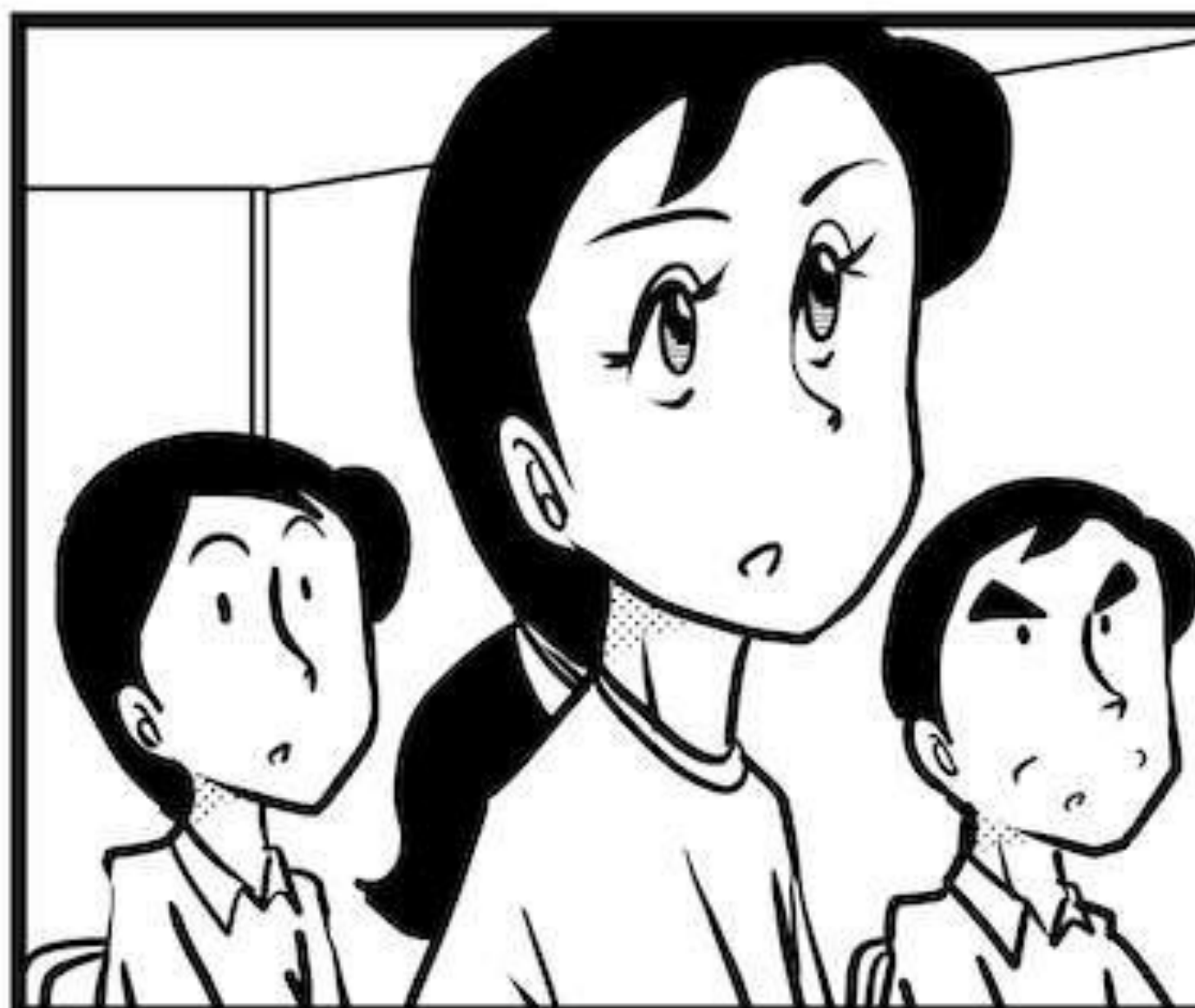
「古いものの
計画的な廃棄こそ
新しいものを
強力に進める
唯一の方法である」



ピーター・F・ドラッカー

「みなが昨日の
仕事に忙しい」※

「アイデアが
不足している
組織はない
創造力が
問題なのではない」



多忙化が進めば
教師の能力開発は
ストップし
カリキュラムは
改善できずに
形骸化します

その結果
教育の質は低下して
被害を受けるのは
子どもたちです

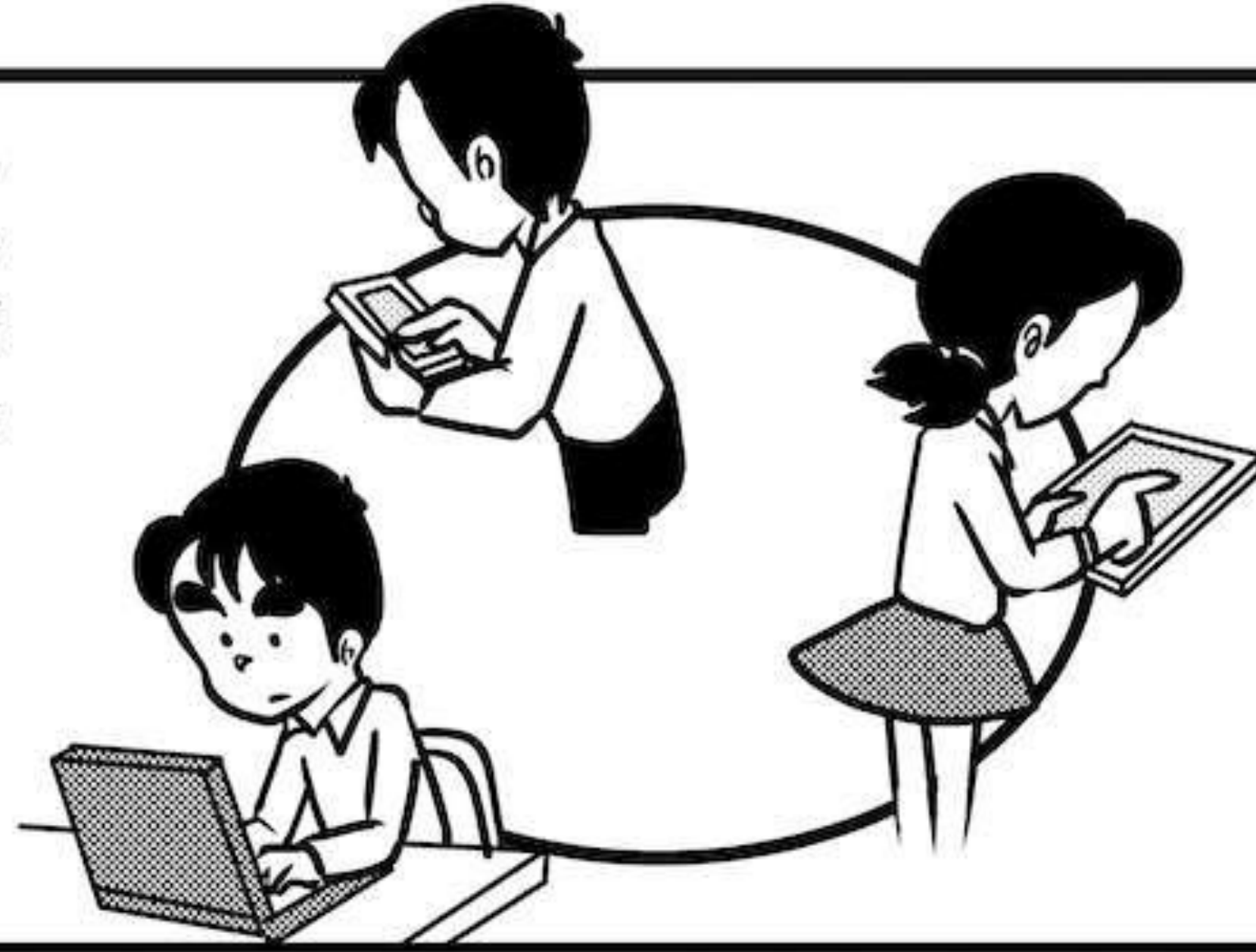
かと言って……

※P.F.ドラッカー著
『経営者の条件』
(ダイヤモンド社)





また
情報通信技術が
急速に
発達してきたことで
子どもから大人まで
情報端末を
使うようになりました

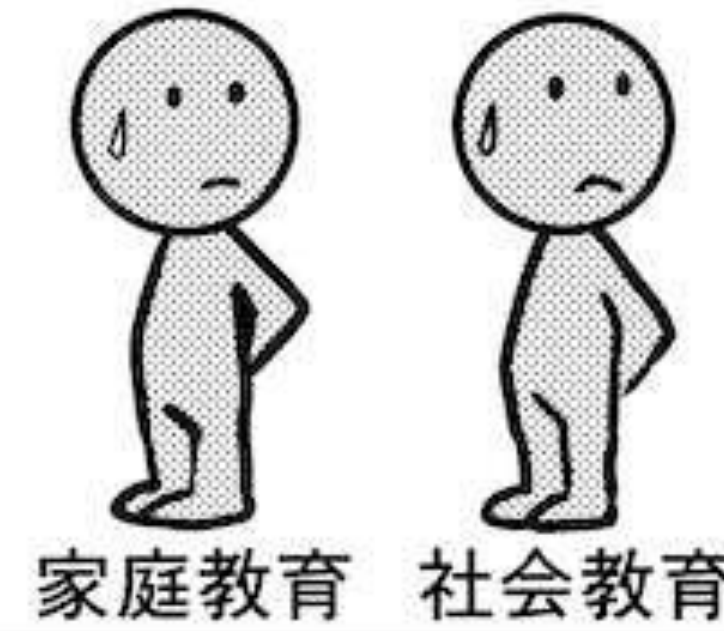


その結果
ネットに関する
トラブルも
頻発することになり
情報モラル教育も
必要となりました

そもそも
子どもが育つためには
学校教育だけではなく
家庭教育や
社会教育も
必要なんです



学校教育



家庭教育 社会教育

しかし
現状は
問題のほとんどを
学校教育が請け負い
学校は多忙化して
しまっているのです

教育のあり方は
社会全体で
考えていくべき
大きな問題です
誰もが当事者に
ならなければ
いけない

だからこそ
われわれもまた
自分たちの
業務改善について
考えていくことが
必要なんです
あきらめては
いけない

業務改善も
重要な
カリキュラム・
マネジメントです

まずは
小さなことでも
問題を共有して
みんなでアイデアを
出しましょうよ

みんなで
業務改善について
話し合う……

熱心先生は
お子さんをむかえに
保育園に行くので
毎日5時30分に
学校を出ますよね

どうやって
仕事を進めて
いるんですか？

学校を定時に
出ることを
目標にして
一日をイメージ
しているんです

そのハウツーを
全体で共有できると
いいですね







教職員の協働による問題解決学習

対話

省察



幸せの四つの因子

1 「やってみよう！」

自分の得意なことを伸ばす楽しみ

2 「ありがとう！」

つながり・愛情・感謝・親切

3 「なんとかなる！」

前向きと楽観

4 「あなたらしく！」

人の目を気にしない自分を作る

良き学び手は
苦勞さえも
学ぶ材料にする



人を育てるって
そもそも
簡単なことじゃない

苦勞の連続だ



しかし
おれたちは
教師の道を
選んだ

そしてこれからも
教師の道を
選ぶ人たちがいる
だからこそ……



教師になって
幸せだったって……

そんな
人生を送ろう

